

## 平成28年度第1回向日市地域公共交通会議 会議録

- 日時 平成28年4月27日(水) 10時～11時30分
- 場所 向日市福祉会館 3階 大会議室
- 出席者 (委員)
- 安田市長(会長)、野津委員、市田委員、高橋委員、多田委員  
佃委員、中村委員、辻山委員、木ノ山委員、川本委員、川畷委員  
道久委員、越智委員、宇野委員(議長)、谷内委員、菅沼委員(代理 森本氏)、  
林委員、三沢委員(代理 貴志氏)、衣笠委員、太田委員
- (事務局)
- 酒井市民生活部長、浦元防災安全課長、小島防災安全課係長  
美濃部防災安全課主査、橋田防災安全課主査、入江防災安全課主事
- 傍聴者 14名
- 次第
- 1 開会
  - 2 会長あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 前回会議の整理について
    - (2) 新たな地域公共交通手段の検討について
      - ア. 長岡京市における取り組み(報告)  
長岡京市建設交通部交通政策課 下澤和道課長補佐
      - イ. 新たな地域公共交通手段の導入について
  - 4 閉会

---

### 1 開会

### 2 会長あいさつ

### 3 議事

事務局

#### (1) 前回会議の整理について

<2ページについて>基本理念について、前回会議の中で、高齢者の交通事故防止への対応を図る意味合いも含めたほうがいいのではないかとの意見が出たことから、「安心・便利に移動できるまち」から「安全・便利に移動できるまち」へと文言を修正した。また、基本的な方針について、方針1の最後の部分に関しては、前回会議で誰もが乗ることができるコミュニティバスについて取り組んでいくという方向性が決まったため、「等」を削除し、「コミュニティバスの導入を図る」とした。

<3ページについて>新たな地域公共交通会議の事業目的について、前回の会

議資料では、観光目的についての文言を記載していたが、観光目的は副次的なものではないかとの意見があったことから、観光目的についての文言は削除し、交通事故における高齢者割合及び公共交通以外に移動手段のない高齢者の増加への対応についても考慮し、「クルマに過度に依存しなくてよい、誰もが安心・安全に移動できるまち」を目的に追加した。

また、行きたい場所・施設についても「歴史・観光施設」という文言を記載していたが、同様の理由で削除した。

<4 ページについて>公共交通空白（検討対象）地域の検討について、左の公共交通空白地域の範囲については、変更していない。右の提案部分については、前回資料で提示したものに加え、市の地勢や地形について考慮する必要があることから、「③主要な施設までの高低差」についても条件のひとつとして加えた。その結果、3点の条件を踏まえ、対応を検討する必要がある地域を「公共交通検討対象地域」とし、今後においてもこの地域を優先的に検討していきたいと事務局としては考えている。

議 長 事務局からの説明について質問・意見等あれば。

委 員 資料③近隣市町のバス運行状況等一覧について、市の規模に比して一般会計予算額が著しく低いところなどがあると思うので、再度確認してほしい。

事務局 確認しておく。

委 員 他市の事例を見ていると、事業者には運行業務を委託しているところがほとんどであるが、自治体の直営ではできないのか。事業者へ委託することのメリット・デメリットについて教えてほしい。

委 員 自治体だけでもできなくはないが、道路運送法上の許可は必要であり、安全面等を考慮して、自治体の判断で既存の事業者には委託されているケースが多いと考えている。

委 員 コミュニティバスに限定した理由を教えてほしい。

事務局 前回の会議でコミュニティバスでいくという方針が決まったということで、資料にはバスと書いたが、その辺りについてもこの会議の場で議論していただいて決めていただければと思う。

議 長 コミュニティバスの定義自体はいろいろと考えられるので、向日市版のコミュニティバスを考えていければと思う。それがタクシー車両になるのか中型バス車両になるのかは分からないが、市民のニーズによって変わってくるのではないかと思う。

会 長 どうしてもコミュニティバス等という「等」のなかに福祉バスを連想する。前回の会議で福祉バスではないということが決まったので、「等」を外した。

議 長 資料の3ページの医療・福祉施設のところで個人医院を除くとしているのはなぜか。

事務局 事務局としては利用者の多い大きい病院を想定してこのように書いたが、個人病院も含めて考える必要があるとのことであれば、その辺りについても会議で決めてもらえればと思う。

## (2) イ. 新たな地域公共交通手段の導入について

事務局 前回の会議の中で、地域の声を聞く場を設けてほしいとの意見があり、今後地域の公共交通利用に関するニーズを把握するにあたり、どのような方法で地域の声を汲み取っていくのかどのような形で進めていくのかを委員の皆様で議論していただきたいと考えている。

<2ページについて> 1. アンケート調査を行う場合、2. ワークショップ等の住民懇談会を行う場合、3. 1+2の両方を行う場合のそれぞれのメリット・デメリットについて記載した。

・メリット・デメリットについて説明

意見を聴取する対象地域については、コミュニティバスの早期の運行開始を考慮し、また、これまでの会議での意見等を踏まえると、まずは公共交通検討対象地域を優先的に検討することが考えられるが、その辺りについても、この会議の場で決めていただければと思う。

なお、前回の会議において他市の事例を一覧にした資料があったほうがいいのかとの意見があったことから資料③について用意したが、参考資料ということで、事務局からの説明は省略させていただくので、後ほどご一読いただければと思う。

委 員 公共交通検討対象地域について、バス停から300mは遠いのではないかと。200mないし150mにしてはどうか。また、聴取方法については住民懇談会の方式で進めたらいいのではないかと思う。住民の意見を聞くにしても、この会議である程度練ったルート案等を作成し、それを持って、住民懇談会に向いたほうがよいのではないかと思う。

事務局 公共交通検討対象地域については前回の会議でも300mで提示したが、具体的な意見はでなかったため300mのままにしたものであり、議論の中で200mなり150mで進めたほうがいいのかとのことであれば、それで進めていただいても構わない。

また、ある程度練ったルート案等を持ってくほうがいいのかとのことだが、その点に関しても、この会議での決定事項であれば、そのように進め

させていただければと思う。

議長 バス停からの距離については特に決まった定義はないので議論していただければと思うが、例えば200mにしたところで検討対象地域が増えて、すべてに対してサポートできるかは分からないのでご理解いただきたい。

また、ここである程度の成案を作るとのことであるが、当然取り組みの速度は上がるかもしれないが、住民の声をどこまで吸い上げることができるかというところもあるので、その辺りについても検討いただきたい。

委員 アンケートについては、平成23年度にも実施したが、公共交通検討対象地域に対して改めてアンケートを取るということでいいのか。

事務局 これは事務局としての案であり、アンケートを実施するかどうかも含め、その実施方法についても議論していただきたい。

委員 バスの運行主体については、今後議論をしていくためにも先に決めておくべきではないかと思う。

また、住民意見の聴取方法について、アンケート調査と住民懇談会の両方を行えば経費はかさみ、手間暇もかかるが、それぞれのデメリットを埋めることはできると思うので、できるだけ綿密な調査がしたい、広く住民の意見を吸い上げたいとのことであれば、両方行うのも良いと思う。もしワークショップをするのであれば、健康で元気に移動できる人だけでなく、車椅子の方であったり、ベビーカーを押して移動される方などにも参加していただき、多様な方の意見を聞いて地域としてどのような移動手段を確保していくのかということをお話し合えるようにしてはどうか。

事務局 運行主体については、他市の事例でNPO法人が事業主体となってやられているところも見受けられるが、本市ではそれは難しいかと思うので、事務局としては行政が事業主体となっていくものと認識はしているが、その辺りも会議で決めていただければと思う。

議長 ワークショップの進め方については、単に1段階で終わるものではなく、ニーズの高い地域等がある程度ワークショップで絞って、さらに住民にも参加いただいて、その中で検討していただくような形が描ければ理想だと思う。ただ、その分時間は多少必要になるかと思うが。

委員 住民懇談会を行う単位としては、区・連合自治会単位でいいと思うが、自治会等に参加されていない住民もいるため、その方たちの声も聞くためにはアンケート調査も併せて行うか、またはパブリックコメントを求めるなどといったやり方もあると思うので、経費はかかると思うが、アンケート調査と住民懇談

会の両方を行った方がよいのではないかと思います。

委員 できるだけ地域の声を聞く場は設けてほしい。アンケートと住民懇談会の両方をすれば時間がかかるのではないか。

議長 時間はもちろんのことそれにかかる経費も考慮しなければならない。それに関しては市の財政状況を考慮する必要があり、また、この会議の場での総意を得られなければ進めることはできない。いずれにしてもどの方法で行っても1回限りで終われるものではないので、多少の手間暇はかかるものであると思う。

委員 個人的にはアンケート調査も住民懇談会もやるべきだと思う。アンケートの回収率については、長岡京市が以前行ったアンケートが5割を超えていたので、長岡京市を参考にしてみてもいいと思う。また、先程の意見でも出ていたが、ホームページ等を使って、パブリックコメントをとるのもいいと思う。

委員 コミュニティバスはコストがかかる事業であるが、コミュニティバスの運行が開始した後、老人福祉センターバスの運行はどうする方針か確認したい。

会長 老人福祉センターバスは運行目的が違うので、コミュニティバス運行開始後も基本的には継続して運行しようと考えている。市民の方が行きたいと思う施設等から協賛いただけることもあるかもしれないので、コストの面については今後考えていきたい。

議長 最後に事務局からなにかあるか。

事務局 阪急バスから1点お知らせがあるとのことなので説明をお願いします。

委員 この春からバスロケーションシステムの導入を開始した。経路検索が可能になり、実際そのバスが現在どこを走っているのか、遅れているのかどうかなどがリアルタイムで確認できるというサービスを実施しているので、少しでも多くの方にバスを利用していただければと思う。

会長 本日も長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。アンケートの回収率について、平成23年度に行ったアンケートに関しては、争点が無かったこともあり、興味が湧きにくかったかと思う。もし、アンケート調査を行う場合、今回はどこを走らすべきか、どこにバス停が必要と思われるかなど、実際に走らせることを前提としたものなので、自然と回収率は上ると思う。アンケート調査をするにあたっては、距離と時間と高低差を加味した内容にしなければならないと思うし、パブリックコメントを実施するなどいろいろな方法で経費を抑えつつ、市民の方のご意見をしっかり聞くことができる方法をこれ

から考えていきたいと思うので、協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。

#### 4 閉会